

## 農林水産大臣賞

おいしい果物への感謝

東京都稻城市立長峰小学校

六年

秋山 圭乃

私の祖父母は山形県に住んでいる。祖父母の家に遊びに行くと、いつも山盛りの果物がお皿に乗って運ばれてくる。知人からのおすそ分けや、売り物にならない規格外の果物を安く譲ってもらおうそうだ。だから祖父母の家はいつも果物であふれている。

山形は「フルーツ王国」とよばれているくらい果物栽培が盛んだ。昼と夜の気温差が甘くておいしい果物を作るのだ。また、最上川のミネラル豊富な雪解け水も関係していると思う。

日本の果物は農家の方々が手間ひまかけて作っている。果実に日光が当たるようにする摘葉、果実を大きく甘くするための摘果、雨風から守る袋かけなどの作業で果物の質を上げている。これらはとても大変な作業だが、農家の方々は自分の子供のように大事に育てている。

日本の果物は繊細だ。品種改良により糖度を高めたり、皮を食べられるようにしたり、種をなくしたりと、様々な研究をしてよりおいしく食べやすい果物が作られている。外国の人が日本の果物を食べたなら、そのおいしさにとても驚くだろう。例えば、いちごは傷みややすく繊細な果物なので、海外に輸出するのは難しい。外国人観光客にいちご狩りが人気だというニュースを見て私は納得した。

山形にいる祖父母は、りんごや柿、梨、桃など旬の果物を段ボール箱いっぱい送ってきてくれる。その中には形がいびつだったり、傷がついている物もある。見た目は不格好だがとてもおいしい。送ってくれた果物を使ってジャムやコンポートを作ってみたりするが、市販の物と違い甘さ控えめでこれもおいしい。

四季がある日本だからこそ、旬の様々な果物を食べられる私達は幸せだ。日本各地の農家の方々に感謝しながら、大好きな日本の果物をこれからもたくさん食べたいと思う。